

P-46. 巨大な扁桃結石の1例とCTにおける口蓋扁桃の石灰化の検討

○李 佳奈¹⁾・武木田誠²⁾・牧野邦彦¹⁾

1) 新須磨病院耳鼻咽喉科

2) たけきだ耳鼻咽喉科クリニック

扁桃結石は摘出口蓋扁桃の2.2から8%に認められるといわれているが、そのほとんどが微小な結石で、臨床症状を呈するようなものは稀である。成因についてはさまざまな報告があるが、一般的には陰窩内に蓄積した脱落上皮、細菌塊、白血球が核となって形成されるとされている。以上のようにして析出した膿栓に石灰沈着をきたし、結石が形成されるとしている。一度結石が形成されると、結石と扁桃組織の接触部の機械的刺激により、さらに炎症が助長され結石が増大すると考えられる。臨床症状としては咽頭痛、嚥下時痛、咽頭違和感、慢性口臭などがあるが、今回我々が経験した症例では咽頭違和感が主訴であった。無症状に経過することもあるが、扁桃や軟口蓋に発赤を認めたり、急性扁桃炎や扁桃周囲膿瘍を併発するという報告もありこのような症例の中に扁桃結石を合併している可能性を考慮すべきと考えた。

そこで扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍症例群28例と対照群40例においてCT上での口蓋扁桃内の石灰化の有無を比較検討した。CTのスライス5mmと10mmのものを検討しており、扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍症例群では14例<50%>が5mmスライス、対照群では29例<72.5%>が5mmスライスであり、対照群のほうがスライスの小さいものが多かった。CT値が100HU以上のものを有意な石灰化とした。扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍症例群では16例<57.1%>、対照群では12例<30%>と明らかな有意差<p=0.0442<0.05、Mann-Whitney U test>をもって、口蓋扁桃内に石灰化をもつ割合が高かった。

また今回われわれは巨大な扁桃結石症例を経験したのであわせて報告する。

症例 71歳女性

主訴 咽頭違和感

現病歴 咽頭違和感があり近医を受診したところ、左口蓋扁桃に黄白色の硬い腫瘤をみとめ、左口蓋扁桃結石の疑いで当科紹介受診となった。急性や慢性扁桃炎の既往などはなかった。左口蓋扁桃上極付近を中心として、結

石が露出しており、CTでは最大径20mmの辺縁明瞭な骨密度に一致する腫瘤を認めた。全身麻酔下で口腔内より口蓋扁桃上極の一部を切開して結石を摘出した。結石の成分分析の結果はリン酸カルシウムが95%以上であった。